

景況レポート・1月

1月の県内景況は、全体として前月から悪化の傾向。 設備操業度も低下。

情報連絡員による平成25年1月の県内中小企業の景況は、業界全体として「低調」とするところが42.1%（前月比+2.5）、「横這い」は33.3%（同-2.9）、「好況」は24.6%（同+0.4）となっており、業界全体の「景況感DI」は-17.5%（同-2.0）と悪化しています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

- ◇「売上高」「取引条件」がマイナスのDI値に転じました。
- ◇「在庫数量」以外のすべての項目（「売上高」「販売価格」「取引条件」「収益状況」「資金繰り」「設備操業度」及び「雇用人員」）が前月と比較して減少しています。前月比で「設備操業度」は16.2%減少、「売上高」は12.2%減少しています。

2. 業種別の「業界の景況」

- ◇前年同月と比較して、木材木製品製造業、その他の製造業、建設業は「快晴」または「晴れ」、小売業、サービス業は「曇り」、その他の業種は「雨」または「大雨」となっています。
※DI値 +30以上「快晴」 +10~+30未満「晴れ」 -10~+10未満「薄曇り」
-30~-10未満「曇り」 -50~-30未満「雪」 -50以上「大雪」

3. 個別の報告の概要

- ◇食品製造業からは、円安等の影響で原材料の価格が上昇しているとの報告があります。
- ◇円安の影響で、輸入品である穀物や外材、原油の価格が高騰しているとの報告があります。
- ◇大雪の悪影響について商店街、建設業、青果物小売、菓子小売及びタクシー業などから報告があります。
- ◇卸売業からは「人手不足」について、建設業からは「組合員の倒産」について報告があります。

来月の見通しは、「好転」、「やや好転」の見込みとの回答は21.1%（前月比+5.5）と増加しています（「好転」2件、「やや好転」10件）（製造業7件、非製造業5件）。一方、「やや悪化」、「更に悪化」の見込みとの回答は、17.5%（同-11.8）と減少しています。「変わらない」見込みとの回答は、61.4%（同+6.2）と増加しています。

平成25年1月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率95.0%）

木材・木製品製造業

<製材業>

円安による欧州材の値上りから、国産材の引き合いが活発化、製品価格も上昇傾向にある。さらに冬場にもかかわらず例年以上に丸太の出材が順調であることから、製材工場では増産に入りたいが、丸太の凍結で生産性が低下している。

<外材輸入>

急激な為替変動と現地価格の強気配から原材料の輸入コストは一気に上昇。国内の流通在庫不足から各工場への引き合いは強いが、増産にも限界があり、今後、輸入コスト増加分を製品価格に転嫁できるかが課題である。

繊維・同製品製造業

<ニット>

心配していたとおり春夏物の受注が少ない。

<縫製品>

春夏物の生産が活発になってきた。しかし、アイテムによって動きに差がみられる。ただし、夏物の追加発注がまだ少ないため、今後の状況について懸念している。

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、見積引合とも前年・前月と比べても、減少傾向で推移しており、今期末まで続くものと予想される。従って売上高並びに収益面は、共に前年同月及び前月と比較しても減少傾向であり、非常に厳しい状況である。

<電子工業>

2月は1月よりやや上向くも、全体的に生産量は減少しており、教育訓練を計画し、実施する予定である。

紙・紙加工品製造業

<紙器段ボール箱>

製紙メーカーによると昨年の紙・板紙の需要は約2,600万トン程度で、前年比で97~98%となっている。このような状況下で昨年秋には全ての原紙、材料が強力で価格修正、値上げが行われ現在に至っている。当業界も厳しい環境の中、顧客との価格交渉に取り組んでいるが、価格転嫁は難しく苦しい状況にある。

窯業・土石製品製造業

<陶磁器>

冬期間は通常、低調であるが、1月は特別の注文があったため売上げが増加した。2月は少し寒さが緩めばお客様が来ると思われる。

<砕石>（県北地区）

1. 当月売上高の前月比 約38%の減
2. 当月売上高の全年同月比 約59%増
3. 全数量の前年同月比 約75%増
4. 原因・状況 正月休みと積雪により工事作業日が前月と比較し少なく、砕石納入数量が伸びなかった。

<生コン>

平成25年1月の組合員生コン出荷数量は、105,508㎡と前年同月比22.4%の増。東日本大震災等で被害を受けた道路、建物、港湾等補修工事での増加が主たる要因。出荷数量の内訳は、民需が前年同月比14.3%の増、官公需が34.9%の増と、民需、官公需共に増加した。

■民需の動向

前年同月比 14.3%の増

①前年同月比増加地区

<県中地区> 22.7%の増

南東北新生病院工事、羽田ターミナル工事等

<白河地区> 24.0%の増

ソフトバンク鉄塔工事等

<相双地区> 122.8%の増

原町火発保安対策工事、原発保安対策工事、常磐道工事等

<会津地区> 3.6%の増

JAあいづ猪苗代中央店新築工事、病院増築工事等

②前年同月比減少地区

<県北地区> 19.2%の減

伊達みらいJA国見支所建築工事等

<いわき地区> 8.9%の減

小名浜精錬所工事等

■官公需の動向

前年同月比34.9%の増

①前年同月比増加地区

<県北地区> 7.2%の増

栗子トンネル工事、福大未来支援センター棟新築工事、東北道福島JCT等

<県中地区> 14.5%の増

郡山市本庁舎改修工事、道路橋梁整備落合橋下部工事

<いわき地区> 270.7%の増

小名浜港7号埠頭地区岸壁復旧工事、西防波堤地区災害復旧工事等

<相双地区> 11.7%の増

海岸保全施設整備工事、相馬港災害復旧工事等

②前年同月比減少地区

<白河地区> 7.8%の減

市営住宅建築工事、工場の森B工区工事等

<会津地区> 18.1%の減

只見地区道路・橋梁復旧工事等

食品製造業

<豆腐油揚>

輸入原料（大豆等）の高騰が心配である。厳冬を理由とした売上増で何とか息をついている状況であるが、先行きは不透明である。福島県の地場の製造業者は依然として県外業者の攻勢を受け続けている。

<味噌醤油>

全体として低調である。新年に入り円安が進み輸入原料（大豆等）が高値傾向にある。当組合として、中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業第6次の認定を受けた。今後、組合員が復旧・復興に前進することを祈っている。

<菓子>

1月は積雪の関係で顧客の出足がにぶり、業績が悪化した。また原材料が少しずつ値上がりしているが、販売価格に転嫁できず、収益的に悪化しつつある。風評被害が一段落したように感じられるが、絶対的に人口が減少しており売上げに影響している。

<酒造>

収益状況は悪くないが、売上が落ちている。地元消費の落ち込みが目立つ。「八重の桜」効果に期待したい。

<食品団地>

A重油の値入価格が1月以降上昇している。

小売業

<共同店舗>

（浜通り地区のOショッピングセンター）
売上高（前年同月比3.3%の増）、客数（同9.7%の増）と両部門とも前年を上回った。月初めに実施した初売が好調であったことが、両部門が前年を上回った大きな要因である。中でも、食料品（同21.7%の増）、家庭用品（同20.6%の増）は好調を維持している。
（県中地区のNショッピングセンター）
核店舗のスーパーマーケットの売上こそ前年同月比100%をこえてクリアしているが、ショッピングセンター全体では、前年同月比を割り込んでいる。今後、組合員各店舗の資金繰りの悪化が心配される。

<石油>

1月は、昨年より続く円安と原油高により、仕入価格、小売価格ともに上昇している。特に灯油については、寒波による需要増が大きく影響し、在庫減少と価格高騰が著しい状況となった。

<青果>

1月は前月から続いた野菜の高騰もあり、取引があまり伸びなかった。更に都心部に積もった雪の影響で物品が市場に到着しないという状況もあり、一時的に品数が揃わない等、取引高、取扱高が悪化、減少した。2月も天候に左右されるが、単価の高騰は続くともみている。

<電機>

太陽光発電を販売及び工事を行っている店以外の売上げは低迷している。太陽光発電を手掛けている組合員は全店の1割にも満たないため、全体としては大変厳しい状況。顧客に対する安全点検訪問など、販売のきっかけづくりが必要である。

卸売業

<卸売業> (県中地区)

例年以上に寒さが厳しかった1月は、冬物商材の回転が良かった。特に、暖房に関連する日用品は売上が好調。その一方で、全体的に人手不足感が広がってきたことが気にかかる。業種によってはパートだけではなく正社員で募集しても集まりにくい状況。

<再生資源>

新年を迎え、また、新政権となり、落ち込んでいる景気が少しでも好転することを心から期待している。今までは国民全体がすべて犠牲にされてきた政治のような気がしています。福島県は放射能がなくなる限り、永遠に良い暮らしは出来ないと思います。この様なことばかり記述するのは堪えがたいのですが、とにかく会社としても、ただ生き延びることを考え努力するしかありません。

建設業

<建設業> (県一円)

組合員が2社倒産した(公共工事の減少と元々経営体質が脆弱だったことが原因)。相双地区では今後、震災復旧工事を推進するために、既存の生コンメーカーだけでは供給が追いつかないことから、建設業の地区組合で生コン製造工場を設立(メーカーとタイアップ)して対応する予定。(県南地区)

正月の休業及び積雪により、稼働日数が減少し、工事の進捗率が悪くなっている。受注状況は、除染業務の大型発注があり伸びているが、災害復旧工事の発注は減少している。

<管工事>

給水・排水設備申請とも前月比で減少。前年同月累計対比では、給水設備申請が減少し、排水設備申請は増加している。

<専門工事>

例年にない雪に見舞われた事もあり、除雪作業に手間を取られた。除染作業に人手を取られている事もあり、現場的には対応に苦労した所もある様だ。大きな事故が発生していない事が幸いである。

運輸業

<トラック運送> (県北地区)

“アベノミクス”により円安が顕著となり、震災、原発被災地域に実在する、基礎体力が落ちている中小企業者にとって、先行する原油の高騰や物価高を乗り切っていけるかどうか正念場にある。ふくしま復興特別資金制度のような、利子補給制度が利用できる金融対策を講じて欲しい。

<トラック運送> (県中地区)

1年後の高速道路の割引終了を回避するため、国へ働きかけをしています。

<ハイヤータクシー>

大雪により出控えが続いたためか低調であった。

サービス業

<旅館業> (土湯温泉)

震災で被災した2軒の宿泊施設の解体が3月31日までに完了予定。残る1軒も4月から着工予定で、温泉街の景観が一変する。ハード、ソフト両面で新たなまちづくり構想をすすめていきたい。

<理容業>

新年早々は雪も降らず暖かい日が続いたため、年末に調整出来なかった方々が来店し忙しかった。その後は寒波の到来で雪も降り寒い日が続いたため、客足も止まった。月後半は毎日寒く雪も降り、休業状態が続いた。毎年のことではあるが暮れに調整したお客様の大半は2月も半ばを過ぎないと来店しない。1月2月の暇な時期をどう乗り切るか、スタッフを抱えているサロンは厳しい状況が続く。

<旅行業>

「日本経済再生に向けた緊急経済対策」が閣議決定され、観光対策として「東北の旅行需要の創出」「訪日外国人旅行者の誘致強化」などが盛り込まれ観光業界にとって力強いことである。今年は、伊勢神宮の式年遷宮や東京ディズニーリゾート開業30周年などがある。また、福島市では東北六魂祭が6月に開催され観光需要創出への取り組みが期待される。

商店街

<福島市>

寒い日が続き人出が少なく全体的に低調だった。街中では最近、建物解体が多く見られ、空地化が進んでいる。また、空店舗も1年前より多くなった。

<郡山市>

1月の駐車場は各部門(現金、サービス券、定期券)とも前年同月比を下回り、合計でも減少した。月上旬は前年同月を上回る時期があったが、大雪の時は極端に悪く、それが最後まで影響したようだった。2月は例年同様に晴れの日が多い見込みとのことだが、どうなるかは判断を許さない。

<南相馬市>

街再生の将来が描けない現状に辛いものを感じています。当組合は、商店街構造改革調査分析事業にエントリーしていて採択待ちです。今後街再生の計画策定にもっていきたく考えています。

<会津若松市>

初売り初市が予想を下回って厳しい2013年の幕開けとなったが、「八重の桜」効果に期待し、会津若松市全体の活性化につなげたい。

<いわき市>

例年のごとく商店街の初売は各店舗2日～4日とバラバラなスタート。ラトプが2日の初売に昨年より集客したというのに、商店街には人が流れて来ない。ただ、初売の熱気が冷めた頃、お得意様がお見えになって、売上を確保するという状況であった。飲食店は新年会、成人式等の需要で先月同様の活況である。毎年恒例、商店街の“だるま市”は前年並みの売上であった。こちらも固定のお客様に支えられての売上である。

景況天気図 1月

天気図の見方

各景況項目について「増加」(または「好転」)業種割合から「減少」(または「悪化」)業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は右表のとおりである。

D・I値基準値

☀ 快晴 30以上	☁ 曇り -30~-10未満
☀ 晴れ 10~30未満	❄ 雪 -50~-30未満
☁ うす曇り -10~10未満	❄ 大雪 -50未満

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	-57.14	-42.86	0.00	-14.29	-85.71	-42.86	-28.57	-28.57	-14.29	-14.29	-71.43	-57.14
繊維製品製造	66.67	66.67	0.00	-33.33	33.33	33.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-33.33
木材木製品製造	-50.00	25.00	50.00	0.00	-25.00	25.00	0.00	50.00	0.00	0.00	0.00	25.00
鉄工機械製造	-20.00	-60.00	0.00	-20.00	-40.00	-80.00	0.00	-40.00	-20.00	0.00	-40.00	-40.00
その他の製造	-28.57	71.43	14.29	14.29	0.00	28.57	-14.29	14.29	0.00	28.57	0.00	42.86
卸売業	-66.67	-33.33	0.00	0.00	-66.67	-33.33	-33.33	-33.33	-33.33	33.33	-66.67	-33.33
小売業	-62.50	12.50	0.00	37.50	-25.00	0.00	-12.50	-12.50	-12.50	-12.50	-25.00	-12.50
商店街	-50.00	-50.00	-50.00	-33.33	-50.00	-33.33	-33.33	-33.33	-16.67	-16.67	-33.33	-33.33
サービス業	-66.67	-33.33	-16.67	0.00	-33.33	-16.67	-16.67	-16.67	0.00	16.67	-33.33	-16.67
建設業	-60.00	20.00	0.00	20.00	-40.00	20.00	0.00	20.00	-20.00	20.00	0.00	40.00
運輸業	-66.67	-33.33	0.00	0.00	-66.67	-66.67	-66.67	-66.67	0.00	-33.33	-66.67	-66.67

組合トピックス

～地場産業等復興・再生連携促進実践事業を開催～

4年度 福島県産新酒発表会



▲放射能検査結果を掲示してPR

中央会では、県内の貴重な地場産業等が東日本大震災及び原発事故からの復興・再生のために取り組む事業を支援しております。今年度は本県の酒造業界を対象として、福島県酒造協同組合が実施する、風評被害を払拭して本県ブランドの日本酒の販売促進を行う事業を支援しました。

去る2月12日、東京の銀座で平成24年度県産新酒発表会を開催し、国内外のマスコミ関係者を招待し、福島県産日本酒の安全性について、JA 福島県本部米穀部の岩沢清隆部長が「ふくしまの米」の安全・安心対策と結果について説明し、酒米対策委員会の渡辺康広委員長が放射能測定検査の結果について、東北から沖縄まで全国から参加した約150名のマスコミ関係者に説明しました。

発表会には、組合員の内27の蔵元が新酒を出展し、試飲会で新酒をマスコミ関係者に振る舞い、風評被害払拭のために

「安全・安心であるふくしまの新酒」をPRしました。

マスコミ関係者に加え、根本匠復興大臣や森まさこ少子化担当大臣も来賓として訪れ、福島県産酒のPRに応援メッセージをいただきました。

また、参加者からは、「たくさんの種類があり、すべて美味しかった。」「これからも福島の酒を愛飲し、応援します。」など、多くのメッセージをいただきました。



▲根本 匠復興大臣



▲森まさこ少子化担当大臣